

仁叟寺通信-23- 「薬師如来立像修復報告」

昨年秋の吉井町郷土資料館にて開催された「仁叟寺の文化財展」に間に合うように薬師如来立像（薬師如来立像に関しては下記仁叟寺探索をご覧ください。）を修復いたしました。修復作業は、仁叟寺誌編纂でも多大なご協力を賜った東京都あきる野市の仏教造形研究所（本間紀男代表）に依頼。展示会の前日に修復作業が完了し、仁叟寺に戻って参りました。その後、無事展示会場である吉井町郷土資料館に運ばれました。展示会の状況は前号でもお伝えいたしました通り、郷土資料館始まって以来の入場者を数え、記念講演も二回行い、大盛況の内に無事終了いたしました。

また、修復作業費用の一部として関口益雄総代人より壹百万円の浄財を頂戴いたしました。謹んで、今回の修復作業のために使わせていただきましたこと、茲にご報告申し上げます。

→修復された仁叟寺旧本尊薬師如来立像と
関口益雄仁叟寺総代人と本間紀男先生



龍源寺探索-20- 「六地藏」

今回の探索では、龍源寺参道に祀られております「六地藏様」を紹介いたします。

地藏菩薩は、六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上）をめぐって衆生を導くといわれております。この信仰に基づき、六道にそれぞれ地藏の分身が当てられました。名称は種々あり、次の通り呼ばれております。

地獄：大定智悲地藏	檀陀地藏	地藏菩薩
餓鬼：大徳清浄地藏	宝珠地藏	宝掌菩薩
畜生：大光明地藏	宝印地藏	宝処菩薩
修羅：清浄無垢地藏	持地地藏	宝印手菩薩
人間：大清浄地藏	除蓋障地藏	持地菩薩
天上：大堅固地藏	日光地藏	堅固意菩薩

各像の持物は、地獄：数珠、餓鬼：柄杓、畜生：合掌、修羅：左手宝珠・右手施無畏印、人間：左手宝珠・右手錫杖、天上：幢幡となっております。

龍源寺の六地藏は牛伏砂岩（多胡石）製で近年は特に損傷が激しくなっております。参道の途中に三体つつ対になって祀られており、ほか二十二夜尊石像、大地蔵菩薩立像なども安置されております。年代は不明ですが、右側にある地藏菩薩立像が宝暦八年（1758）、左側にある二十二夜尊が安永六年（1777）と記されておりますので、江戸時代中期頃と推察されます。当寺には境内や墓所などに道祖神や山王さま、不動明王な



↑ ↓ 龍源寺六地藏



ど石像群が多数残されており、当地及び当時の信仰の厚さを物語っております。

町重要文化財申請中の蚕影山像、継続審議中



↑ 本堂内に祀られている蚕影山

町教委に文化財申請中の龍源寺蚕影山ですが、現在も継続審議中となっております。地域では、蚕影山顕彰碑の建立の話も出ており、かつまた毎年4月29日には恒例の蚕影山例祭が行われております。現在、世界遺産化を進める隣町富岡市の富岡製糸場や桑の優良品種である多胡早生などから、当地は養蚕と深い関わりがあります。養蚕と共に歩んできた歴史を後世に伝えるためにも、また先祖が現在まで面々と続く蚕影山を祀り伝えてきた事実をしっかりと受け止め、当寺だけでなく地域の宝として護っていききたいものです。

各種坐禅会の参加者募集中

今年も恒例の各種坐禅会が仁叟寺を会場に開催される予定です。6月21日（土）～22日（日）には、住職も会員として所属する群馬県曹洞宗青年会主催による第46回群馬緑蔭禅の集いが、7月28日（月）～29日（火）には、第27回仁叟寺子供禅の集いが開催されます。緑蔭禅は高校生以上の大人の方、子供禅は小学校3年生～6年生を対象とした、それぞれ一泊二日の坐禅会です。奮ってのご参加をお願い申し上げます。

また、春には高崎経済大学、早稲田大学、東洋大学といった学校やサンコーグループなど地元企業の坐禅研修会も行われております。団体の申し込みも随時行っておりますので、住職までお問い合わせ下さい。



↑ 昨年の子供禅の集い集合記念写真

ほか、定例の坐禅会も毎週水曜日午後7時から行っております。禅についての関心がある方は、是非一度ご参加下さい。

長屋門に仁王像一対を安置



↑ 阿形仁王像



↑ 吽形仁王像

龍源寺長屋門入口両脇に木製仁王像を安置いたしました。一対の同像は仁叟寺から拝受いたしました。また、長屋門会館を手がけた吉井町長根の上原建築さんが無償にて台座を含めました取り付け工事一式を施工し



↑ 龍源寺長屋門

てくださいました。一般的に山門に安置され、外敵から守護する役目がある仁王像の設置を茲にご報告申し上げます。また開眼供養は、本年4月29日の大施食会兼蚕影山例祭に先だつて勤めさせていただきました。

平成19年度 寄附者一覧 (敬称略)

平成19年7月1日
爲 田中家石塔開眼会供養
施主 多胡 田中敏男
御剃刀



→ 払子及び払子袋
ほっす



平成19年7月29日
爲 鳳華院幾室妙智大姉菩提供養
施主 松田 白田博
正絹羽二重刺繍袈裟

平成19年8月19日
爲 高橋家石塔開眼会供養
施主 吉井川 高橋實
払子一振

↑ 一昨年に行われた
寺族墓地開眼供養



← 正絹羽二重刺繍袈裟
しようけんはぶたえししゅつげさ

→ 桐箱入御剃刀
おかみそり



平成19年秋彼岸会
爲 駒家先祖代々菩提供養
施主 兵庫 駒一俊
寺族墓地改修費用一部

平成20年3月春彼岸会
爲 上原家先祖代々菩提供養
施主 長根 上原建築
仁王像安置工事一式

野菜漬物沢山 松田 杉田彰 惣菜沢山 松田 出牛裕一
米沢山 松田 志賀一夫 竹箒沢山 松田 白田實

役員交代報告

どうも、ありがとうございます。合掌

矢田地区の役員さんが樋口裕さんから金井一二三さんに変更となりました。宜しく願い申し上げます。

行雲流水 (編集後記)

編集人 住職 渡辺龍道

毎年恒例の龍源寺大施食会及び蚕影山例祭が多くの近隣のご寺院様諸老師に随喜していただき無事修行することが出来ました。何よりも檀信徒の皆様はじめ梅花講員、関係者の方々など多くの方々のご縁を頂戴し、伝統の行事が勤められましたこと、ありがたく思っております。詳細は次号の寺報に掲載させていただこうと考えておりますが、今年は群馬県宗務所梅花部長であります高崎市大雲寺御住職仁科清信老師をお迎えし、梅花法話を賜りました。有難うございました。拙僧も早いもので群馬県宗務所梅花主事を拝命し、一年半が経過いたしました。是非、より多くの方々へ梅花流詠讃歌に親しんでもらい、講に入って頂きたく思っております。



当寺のある吉井町と高崎市の合併に向けて三度目となる住民投票が来月に行われます。これからの町の将来を考え、特に後世を担う者への教育に関して差異の生じる事がないよう、速やかかつ穏便に高崎市との合併を一住民として願うものです。

↑ 当寺の春の便り